

試験報告書

依頼者 : アサヒプリテック株式会社

検体 : AP アクア 21 による生成水

試験項目 : イヌパルボウィルス不活化試験

試験結果は次の通りである。

平成 14 年 1 月 23 日
鳥取大学農学部
家畜微生物学
實方 剛

1. 依頼者 : アサヒプリテック株式会社

2. 検体 : AP アクア 21 による生成水

備考 : 検体は鳥取大学農学部家畜微生物学教室にて調製した。

なお、検体は依頼者によって設置された AP アクア 21 を
用いて調製した。

3. 試験実施場所

鳥取大学農学部

鳥取県鳥取市湖山町南四丁目 101

4. 試験担当者

鳥取大学農学部家畜微生物学
助教授 實方 剛

5. 試験実施年月日

平成 13 年 11 月 1 日～平成 13 年 12 月 11 日

6. 試験目的

AP アクア 21 生成水のイヌパルボウィルスに対する不活化活性について検討を行った。

7. 材料および方法

1) AP アクア 21 生成水

アサヒプリテック社製中性電解水生成器より生成されたものを使用した。検体の pH は 6.86 で、有効塩素濃度は 30ppm (O-トリジン法) であった。

2) イヌパルボウィルス

CRFK 細胞で継代したイヌパルボウィルス CP49 株を使用した。

3) AP アクア 21 生成水の感作

イヌパルボウィルスの培養液 (HA 価 1024 倍) を Eagle's MEM で 10 倍に希釈した後、希釈ウィルス液 100ul と AP アクア 21 生成水 900ul を混合し、室温で 0、10、20 および 30 分間感作をおこなった。対照として滅菌蒸留水を用いて同様に感作を行った。感作後、速やかに感作ウィルス液を Eagle's MEM で 10 倍に希釈し、その 100ul を 24 穴のマイクロプレートに培養した CRFK 細胞に接種した。

8. ウィルスの培養

感作ウィルスの培養は 5%炭酸ガス培養器を用い、37℃で 1 週間行った。

9. ウィルス培養液の HA 価測定

ウィルス培養液の HA 価測定は、0.3%ブタ赤血球を用いたマイクロプレート法により行った。

10. 結果

AP アクア 21 生成水のイヌパルボウィルスに対する不活化活性を検討し

た結果、以下の成績を得た。

表-1 試験液の HA 価測定結果

試験液	有効塩素濃度 (mg/L)	HA 価				
		0分	5分	10分	20分	30分
AP水	30	64	32	32	32	32
滅菌蒸留水	0	4096	4096	4096	4096	4096

AP アクア 21 生成水でイヌパルボウィルスを感作し、培養を行った後、その培養液の HA 価を測定した結果、HA 価は 0 分の感作で対象の 1/64、5、10、20 および 30 分間の感作では、それぞれ対象の 1/128 であった。

以上

本資料は私が実施した試験に基づいて作成されたものに相違ありません。

鳥取大学農学部
家畜微生物学

寶方 剛